

センター試験の裏で……

(独) 大学入試センター入学者選抜研究機構助教

立脇洋介 (たてわき ようすけ)

大学入試センターとは

大学入試センターは、毎年1月に実施される大学入試センター試験を、全国の大学と協力して実施する機関です。問題の作成や試験会場への連絡などセンター試験の実施に直接かかわる仕事ですが、その裏でセンター試験や入試を改善するための研究も行われています。

私の仕事

センター試験では、障害のある人も受験できるように、さまざまな特別措置が実施されてきました。今年の1月に実施されたセンター試験からは、発達障害のある人に対しても特別措置が実施されるようになりました。具体的な措置としては、「試験時間の延長」「チェック解答」「拡大文字」「別室受験」があります。医師の診断書と学校の状況報告書をもとにした審査の結果、今年は95名が利用しています。

私の仕事は、発達障害のある人にとって望ましい受験のあり方を研究することです。日本では、発達障害のある人に対する教育的支援が十分でないため、高校や大学の入試で特別な措置がとられている例はほとんどありません。そのため、外国の入試について調べたり、発達障害のある人が試験において具体的に直面する困難を調査・実験したりしています。

公平性の問題

アメリカやイギリスの入試では、非常に多様な措置がとられています。たとえば時間延長はセンター試験が1.3倍なのに、アメリカでは2倍の延長や複数日に分けて受験するという措置があります。またアメリカやイギリスでは、ディスレクシア（読字障害）のある人に対して「問題文の代読」という措置も実施されています。しかしこれらの措置を日本でそのまま導入してよいかどうかは、難しい問題です。発達障害は、脳機能の障害であるために、症状が理解されにくいのです。そのため障害のない人との間の公平性について、他の障害以上に十分な配慮をする必要があります。

どのような措置が公平かは、テストの質やテストによって測定したい能力によって異なってきます。たとえばどれだけ時間がかかっても解答できればよいと考えられているテストや大半の人が時間内に終わるテストの場合、どれだけ時間を延長しても、公平性はほとんど損なわれないでしょう。また読んで理解しても、聞いて理解しても変わらない能力に関するテストの場合、問題文の代読は適切な措置と考えられます。しかし、

Profile — 立脇洋介

2007年、筑波大学大学院人間総合科学研究科心理学専攻修了。日本学術振興会特別研究員(PD)、東京学芸大学教育学部特任講師を経て、2009年から現職。専門は社会心理学、発達心理学、発達障害。



研究室のようす

センター試験では漢文や英語の発音など読み自体の能力を問う問題もありますので、導入するには何らかの工夫が必要となります。

仕事のやりがい

発達障害や入試を専門に研究している人はたくさんいますが、「発達障害と入試」というテーマに関しては、日本で研究している人がほとんどいません。私の研究成果が最新の知見になるため、非常にやりがいのある研究テーマです。さらにセンター試験は、毎年50万人もの人が受験していますし、各大学の特別措置の基準にもなっています。間接的ではありますが、これほど多くの人に影響を与えますので、責任感と充実感を感じられる仕事です。全国の実験生に少しでも役立つよう、今後も研究をしていこうと思っています。